

小野団長から寄せられた投稿です(2019.04.28)

① 「かいのおく・・・」の“かい”の意味は何だろう？

雨後

一つ また一つ 雲は山を離れ 夕暮れの空に浮ぶ

雨の後 山は新緑の襟を正し 膝を交へて並んでゐる

かいの奥 杉の林に 発電所の^ひ燈がともる

さうして後ろを顧れば 雲の切れ目に 鹿島鎗

(出典は下記)

初出 雨後「四季 一〇號」 1935(昭和10)年8月

底本:「三好達治全集第一巻」筑摩書房 1964(昭和39)年10月15日発行

三好達治 山果集 青空文庫 より

「峽」とは“はざま”の意味で、連なる山々の中の峡谷のことでしょう。

② 達治と発哺温泉

達治は昭和8年より信州志賀高原に、療養を兼ねた隠遁生活を送っていた。この場所が気に入って3年を過ごしたが、心身性心悸亢進の発作のため、この温泉場から出られなかった、という理由もあった。

(雨後: 広く浅くブログ 2007年04月09日 より)

【注記】発哺温泉との関わりの詳しくは、Bs田村さんの投稿をご覧ください。